

平成21年11月26日

各 位

積水ハウス株式会社

住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート

「view point」vol.04 発行

「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～

積水ハウス株式会社は、住まいに関する多角度からの調査・研究成果をもとに、住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート「view point」の第4号を発信いたします。

積水ハウスでは、この度、体験学習施設「納得工房」（京都府木津川市）に来館した一般生活者を対象に、防犯意識に対するアンケート調査を実施しました。その結果、玄関ドアの鍵の施錠状況に油断が見られたり、外出時に小さい窓は開けたままにしているケースが意外に多いことが分かりました。今号では、これらの調査から明らかとなった防犯意識に対する実態や、当社がこれまで培ってきた独自の防犯住宅研究とあわせて、泥棒に狙われにくい住まいづくりをご紹介します。

view point vol.04

「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～

●Chapter1 こんな油断が狙われる！

－生活者防犯意識調査から(積水ハウス調べ)－

●Chapter2 敷地内の防犯対策は昼を旨とすべし！

●泥棒に狙われにくい住まいの対策事例

今後も積水ハウスでは、総合住宅研究所においてこれまで実施してきた多分野にわたる調査・研究によって得られた蓄積データをもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートや冊子にまとめ、定期的に発信してまいります。

<総合住宅研究所>

関西文化学術研究都市にある京都府木津川市に位置する積水ハウスの研究所です。住宅の建築技術を担う「技術研究所」、人々の住まい方・暮らしについて提案する「住生活研究所」、体験学習施設である「納得工房」という3つの部門より構成されています。中でも、「住生活研究所」では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組み、快眠研究や子ども住環境研究、ユニバーサルデザインやシニア居住研究から、防犯防災研究、家庭菜園など、住まい手にとって有意義な情報の発信や住まいづくりの支援を行っています。

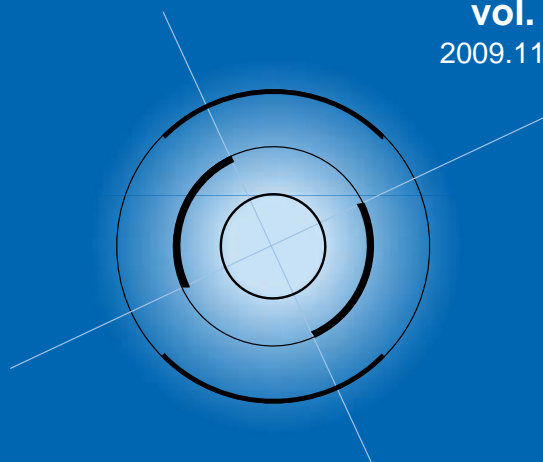
<本件のお問合せ先>

積水ハウス株式会社 広報部

(大 阪) 06-6440-3021 (東 京) 03-5575-1740

Email : info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp

積水ハウス株式会社 住生活研究所では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組んでいます。多角度からの調査・研究によって得られた成果をもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートとして発信いたします。



「泥棒に狙われにくい住まい」～我が家を守る独自の秘訣～

Chapter 1

こんな油断が狙われる！
-生活者防犯意識調査から(積水ハウス調べ)-

Chapter 2

敷地内の防犯対策は昼を旨とすべし！

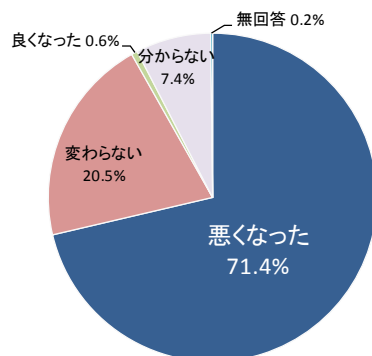
泥棒に狙われにくい
住まいの対策事例

犯罪が減少傾向にある一方で、体感治安は悪化！

刑法犯の認知件数は平成14年に約285万件と過去最大を記録して以降、年々減少傾向にある。これは、生活者の防犯意識の向上や自治体や警察の防犯に対する取り組みの効果の表れと考えられる。

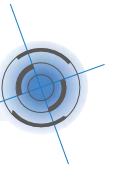
しかし、(財)社会安全研究財団が実施した調査によると、日本の治安が悪くなったと感じる人は71.4%にも上っており、“犯罪の減少”と“生活者が感じる治安”(=体感治安という)には大きな隔たりがある。

また、同調査では罪種別に犯罪に遭う不安の程度を聞いており、「自宅に泥棒に入られる」(77.7%)、「敷地内に無断で侵入される」(62.3%)、「自宅や車に落書きをされる」(54.1%)といった住宅で発生する犯罪に対する不安が上位となっている。生活者の暮らしの中心ともいえる住まいの防犯対策を充実させ、安全性を高めることは体感治安の回復という意味でも重要といえるだろう。



1年前と比べて日本の治安をどう感じるか
(犯罪に対する不安感等に関する調査研究
～第3回報告書:社会安全研究財団、平成20年)

積水ハウスでは、これまで培ってきた独自の防犯住宅研究と最新の生活者防犯意識調査などから、泥棒に狙われにくい住まいづくりを提案している。



Chapter 1

こんな油断が狙われる！ 生活者防犯意識調査から（積水ハウス調べ） -

意外と多い、玄関ドアキーの締め忘れ

最近の泥棒の侵入手口を見ると、最も多いのはガラス破りであるが、実は無締りによる被害も同程度あるということをご存知だろうか（グラフ1）。侵入時に手間が掛からない無締りは、泥棒にとって格好の餌食となる。

このような被害実態を受け、積水ハウスでは一般生活者を対象に防犯意識に関するアンケート調査を行ったところ、驚きの実態が浮かび上がってきた。

過去1年の間に玄関ドアの施錠を忘れて半日以上の外出をしたことがある人は、20%もいることが分かった（グラフ2）。また、ゴミ捨てなどのちょっとした外出時に必ず施錠する人はわずか24%であった。反対に、「全く施錠しない」、「ほとんど施錠しない」と答えた人は半数を占めている（グラフ3）。施錠しない理由としては、「目の届く距離だから」、「面倒だから」、「自宅が被害に遭うと思っていないから」という回答が目立つ。防犯意識の向上により犯罪は減少しているものの、施錠という根本的なことですらまだまだ油断が多い。

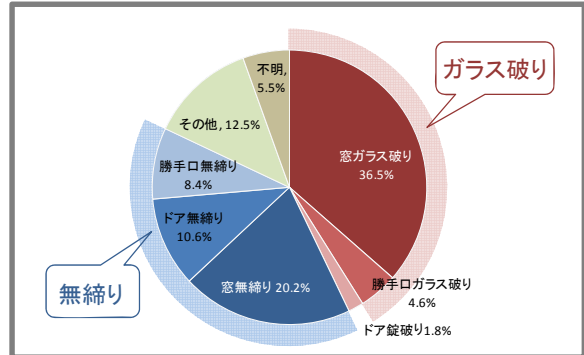
ただし施錠を意識していても、時として鍵を締め忘れてしまうこともある。同調査によると、過半数の人が過去1年の間に外出先で施錠をしたか不安になったことがあると答えている（グラフ4）。鍵を締めたことが確認できる工夫を望む声もあり、住宅設備での対応が必要と思われる。

要注意。外出時、開けたままの“小さい窓”

また、泥棒の侵入箇所としては人が出入りする掃き出し窓だけではなく、腰高窓や高窓などの小さい窓も狙われやすい（グラフ5）。腰高窓や高窓は浴室やトイレ、洗面所など比較的人目につきにくい所に設置されること、換気などの目的で開けたままにしていることが原因と考えられる。事実、今回の調査から浴室に設置されている窓は、70%以上の人が開けたままにしていることが分かった（グラフ6）。ドアの施錠と併せて、再度防犯意識を高める必要がある。

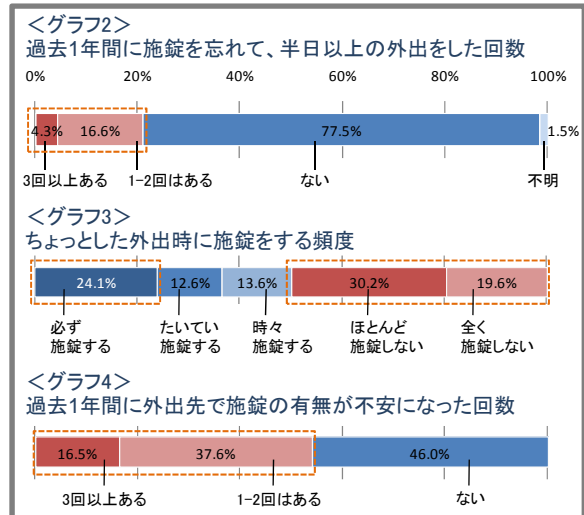
「我が家は大丈夫」といった思いこみは捨て、ちょっとした外出時でもしっかりと防犯対策を行うことが重要。

戸建住宅対象の侵入手口は？



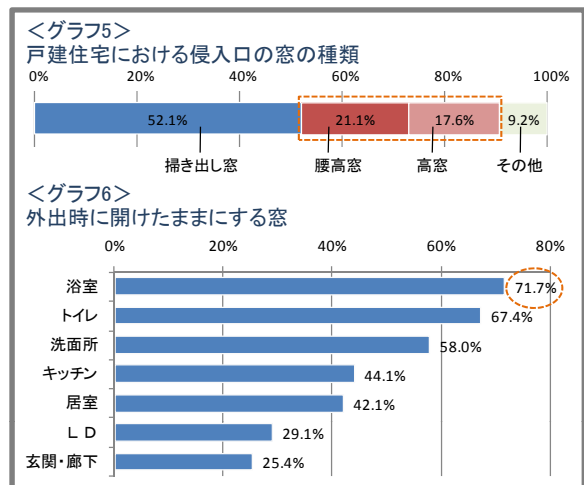
<グラフ1> 平成20年の犯罪情勢：警察庁

戸建住宅の玄関ドアの施錠状況は？



<グラフ2~4> 生活者防犯意識調査*1：積水ハウス、平成21年

窓の種類別侵入被害の実態と外出時に開けておく窓は？



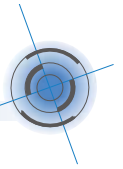
<グラフ5> 侵入盗の実態に関する調査：都市防犯研究センター、平成8年

<グラフ6> 生活者防犯意識調査*1：積水ハウス、平成21年

SEKISUI HOUSE

<調査概要>

※1 生活者防犯意識調査概要（調査対象：納得工房に来館した一般生活者（20-80代）n=200、調査方法：アンケート配布回収方式、調査時期：平成21年10月-11月）



Chapter 2

敷地内の防犯対策は昼を旨とすべし！

被害は昼間の方が多い

泥棒の被害に遭いやすい時間帯は人目につきにくい夜だと思われがちだが、実際には夜間よりも明るい昼間の方が多い。最も被害発生が多いのは12～16時となっている<グラフ7>。

住まいにおける防犯対策は、「狙われないこと」「侵入させないこと」「被害を最小限に抑えること」という3指針で考えることが大切。狙われなければ建物を破壊されることはなく、敷地内に入られることもないため、3指針の中でも「狙われないこと」が最も重要だと考えられる。

狙われないための対策には、

- ・外部からの見通しをよくする
- ・砂利敷きにする(歩くと音が鳴るので嫌がる)
- ・フェンス、生垣などで庭囲いを設ける
- ・防犯カメラを設置する

などの方法があるが、侵入を諦めた理由の第一位が「近所の人に見られた(62.9%)」であることを考えると、周囲からの見通しをよくして狙われないようにすることが重要と言える<グラフ8>。しかし、狙われにくくする手法については明らかになっていないため、その対策について当社独自の研究に取り組んだ。

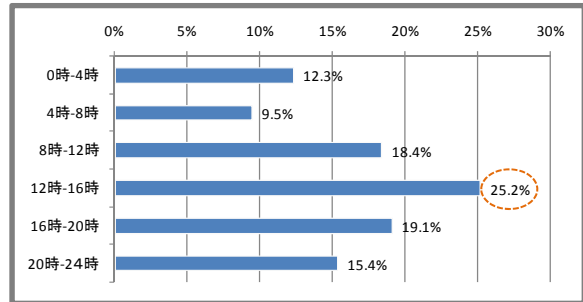
生垣は見通しを考えて隙間量10%以上を確保

生垣やフェンスなどの庭囲いを設けると、道路から見通せる程度は低下する。したがって、防犯のためにはある程度見通しをよくすることが必要だが、見通しのよさについての具体的な指標は存在しない。そこで、見通しのよい戸建住宅の庭囲いについて研究に取り組んだ。その結果、生垣の隙間量が10%以上あれば7割以上の人が生垣に隠れた人を視認することができ、庭囲いの隙間量によって見通しを確保できることが分かった<グラフ9>。

しかし、見通しのよい環境を作っても、見守ってくれる人がいなければ意味がない。普段から挨拶や声かけをすることで近隣関係を築き、まちぐるみで防犯対策を行っていくことが大切である。

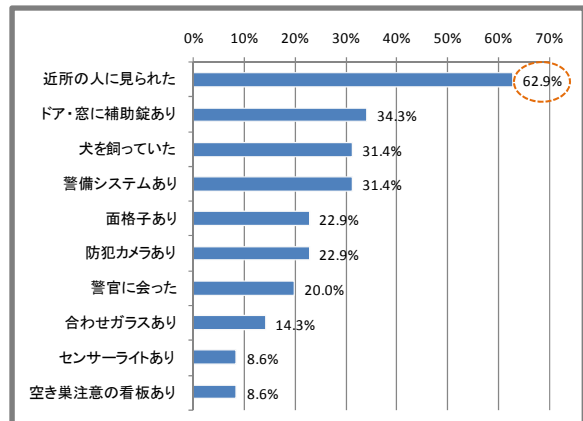
泥棒に狙われにくくするには、まちぐるみで見守り性を高めることが重要。

被害が多い時間帯は？



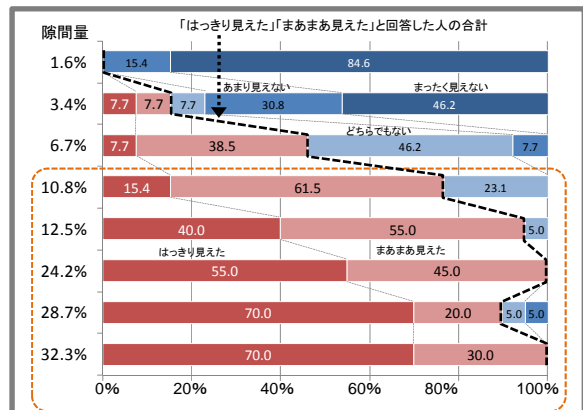
<グラフ7> 平成15年の犯罪情勢:警察庁

犯行を諦めた理由は？



<グラフ8> 侵入盗の実態に関する調査:都市防犯研究センター、平成8年

生垣に隠れた人を視認できる隙間量は？



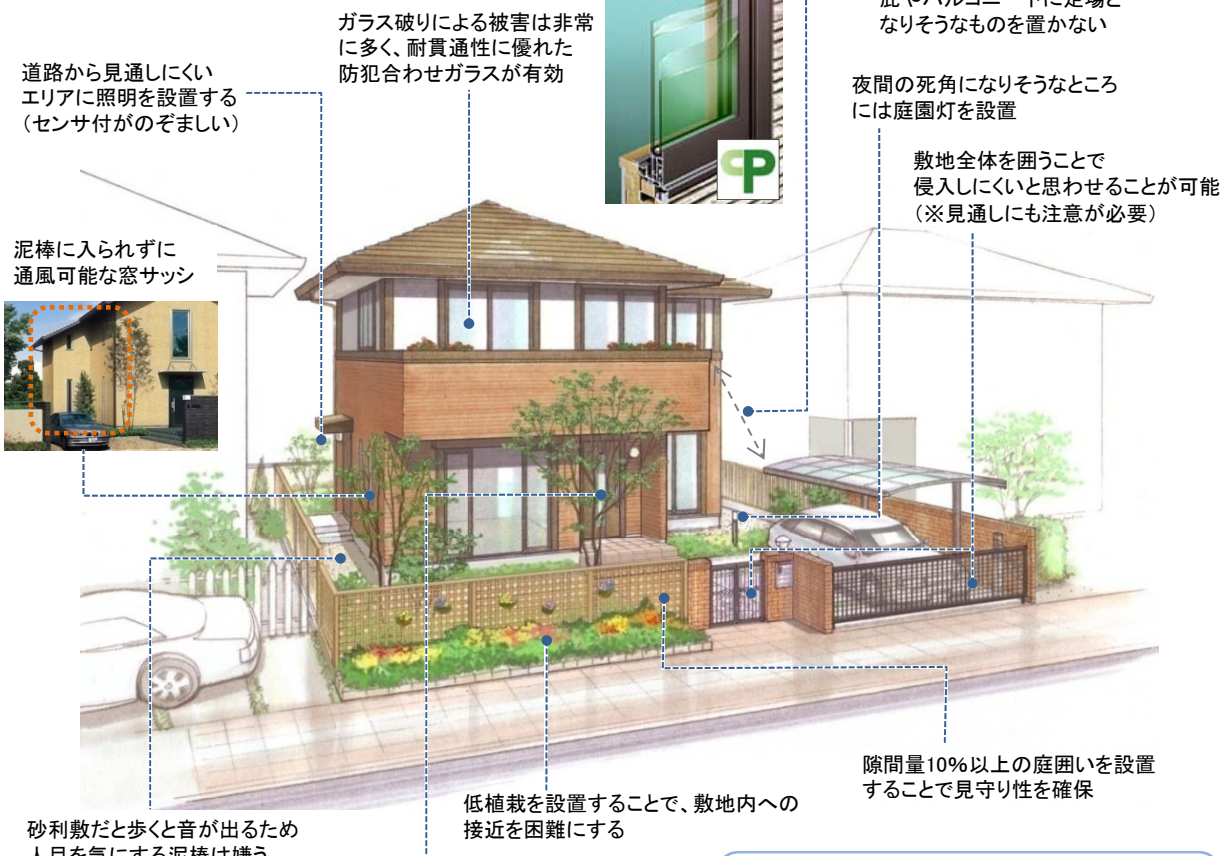
住宅地を歩いているという想定で被験者に生垣の前を歩いてもらい、生垣背後に潜んでいる不審者に扮した人物がどの程度見えたかを確認した。その結果、生垣の隙間の割合が10%以上あれば、7割以上の人が生垣背後の不審者を視認できることが分かった。



<グラフ9> 防犯上必要な生垣の視線透過率の考察:積水ハウス、平成20年度日本建築学会大会にて発表

●積水ハウスが提案する

「泥棒に狙われにくい住まいの対策事例」



積水ハウス独自の防犯対策

施錠したかどうかを鍵本体に表示させる「しめ忘れお知らせキー」



施錠すると鍵本体部分の色が上図のように変化するため、鍵の締め忘れに気づくことができます。

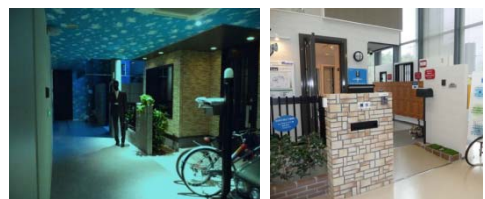
【注】・玄関ドアの吊り元により表示が逆になります。

携帯電話で施錠できる「ケータイホームシステム」



携帯電話の遠隔操作による施錠だけでなく、シャッター開閉、照明やエアコンのON/OFF操作も可能

住まいの防犯をテーマにした施設や展示場など、各地にご覧いただける場所を用意しています。



住まいの夢工場
(茨城県、静岡県、山口県)

納得工房(京都府)

一人ひとりの豊かな暮らしと住まいをプロデュースする
積水ハウス 総合住宅研究所／住生活研究所

一人ひとりの豊かな暮らしと住まいの創出を目標に、居住環境と住まい手の関係を、人間生活工学や、心理、生理的な側面から研究。また、これからの社会や時代ニーズを捉えた、家族のあり方や生活スタイルなどの調査研究を行い、住まいづくりや街づくりに活かしています。



総合住宅研究所(京都府)

本レポートに関するお問合せ先

積水ハウス株式会社 広報部

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

Tel:06-6440-3021 Email:info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp